

米子市水道事業審議会 報告 1
令 和 7 年 8 月 29 日
米 子 市 上 下 水 道 局

第 3 9 回 米 子 市 水 道 事 業 審 議 会

・ 令和 6 年度 決算について

【注記】

金額は、原則として千円単位で表示しています。

単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計、差引き等が一致しない場合があります。

1 業務の状況

区分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	増 減	増 減 率 (%)	摘要
給水戸数（戸）	77,827	78,260	78,586	326	0.4	米子市、境港市、日吉津村
給水人口（人）	180,597	179,128	177,872	△ 1,256	△ 0.7	〃
配水量（m³）	21,841,009	21,446,220	21,479,812	33,592	0.2	
給水量（m³）	19,809,013	19,509,304	19,599,706	90,402	0.5	
有収率（%）	90.7	91.0	91.2	0.2	-	

2 収益的収支（金額は消費税抜き：千円）

①収益的収入

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	増 減	増 減 率 (%)	摘要
総収益	3,309,266	3,289,298	3,362,961	73,663	2.2	
給水収益	2,701,395	2,673,416	2,696,617	23,201	0.9	水道料金収入
その他収益	607,871	615,882	666,344	50,462	8.2	

②収益的支出

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	増 減	増 減 率 (%)	摘要
総費用	2,959,703	2,905,522	3,020,957	115,435	4.0	
営業費用	2,810,162	2,754,062	2,867,487	113,425	4.1	物価上昇等
営業外費用	148,717	145,438	145,132	△ 306	△ 0.2	
特別損失	824	6,022	8,338	2,316	38.5	売却損

③当年度純利益

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	増 減	増 減 率 (%)	摘要
純利益（損失）	349,563	383,776	342,004	△ 41,772	△ 10.9	

3 資本的収支（金額は消費税抜き：千円）

①資本的収入

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	増減率(%)	摘要
総収入	664,609	942,786	751,108	△191,678	△20.3	
企業債	390,000	540,000	355,000	△185,000	△34.3	
工事負担金	192,963	257,466	310,351	52,885	20.5	
他会計出資金	4,724	3,728	3,799	71	1.9	
補助金	68,409	141,578	76,772	△64,806	△45.8	
固定資産売却代金	8,513	14	5,186	5,172	著増	

②資本的支出

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	増減率(%)	摘要
総費用	1,890,976	2,103,382	3,032,184	928,802	44.2	
建設改良費	1,268,178	1,443,764	2,360,683	916,919	63.5	
企業債償還元金	622,798	659,618	671,501	11,883	1.8	

③資本的収支不足額

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	増減率(%)	摘要
資本的収支不足額	△1,226,367	△1,160,596	△2,281,076	△1,120,480	96.5	

4 補てん財源（金額：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	増減率(%)	摘要
損益勘定留保資金	961,385	928,517	971,735	43,218	4.7	減価償却費など
その他積立金	0	29,309	0	△29,309	皆減	
繰越利益剰余金	264,982	202,770	1,309,341	1,106,571	545.7	剰余金の取崩し

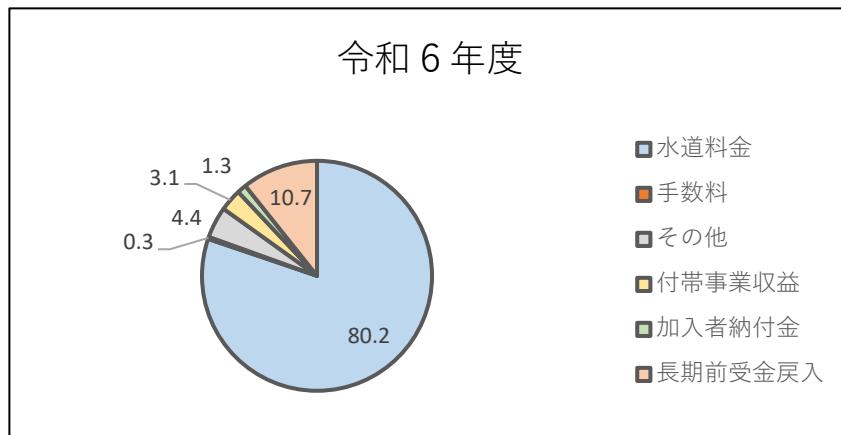
5 内部留保資金（金額：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	増減率(%)	摘要
減債積立金	321,700	340,900	358,100	17,200	5.0	
その他積立金	29,309	0	0	0	—	
繰越利益剰余金	3,437,244	3,599,051	2,614,514	△984,537	△27.4	
合計	3,788,253	3,939,951	2,972,614	△967,337	△24.6	

6 性質別収入及び支出

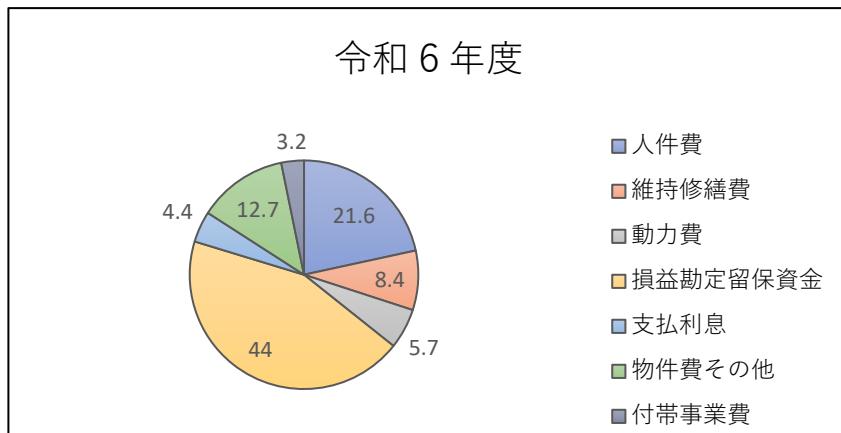
(1) 事業収入に関する事項 【①金額（千円） ②構成比率（%）】

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度		対前年度比較	
	①	②	①	②	①	②	①	②
水道料金	2,701,395	81.6	2,673,416	81.3	2,696,617	80.2	23,201	△ 1.1
手数料	11,836	0.4	9,600	0.3	11,601	0.3	2,001	0.0
その他	121,201	3.7	130,301	3.9	146,558	4.4	16,257	0.5
付帯事業収益	104,602	3.2	100,898	3.1	104,572	3.1	3,674	0.0
加入者納付金	37,522	1.1	35,258	1.1	45,108	1.3	9,850	0.2
長期前受金戻入	332,711	10.1	339,825	10.3	358,505	10.7	18,680	0.4
合計	3,309,267	100.0	3,289,298	100.0	3,362,961	100.0	73,663	0.0



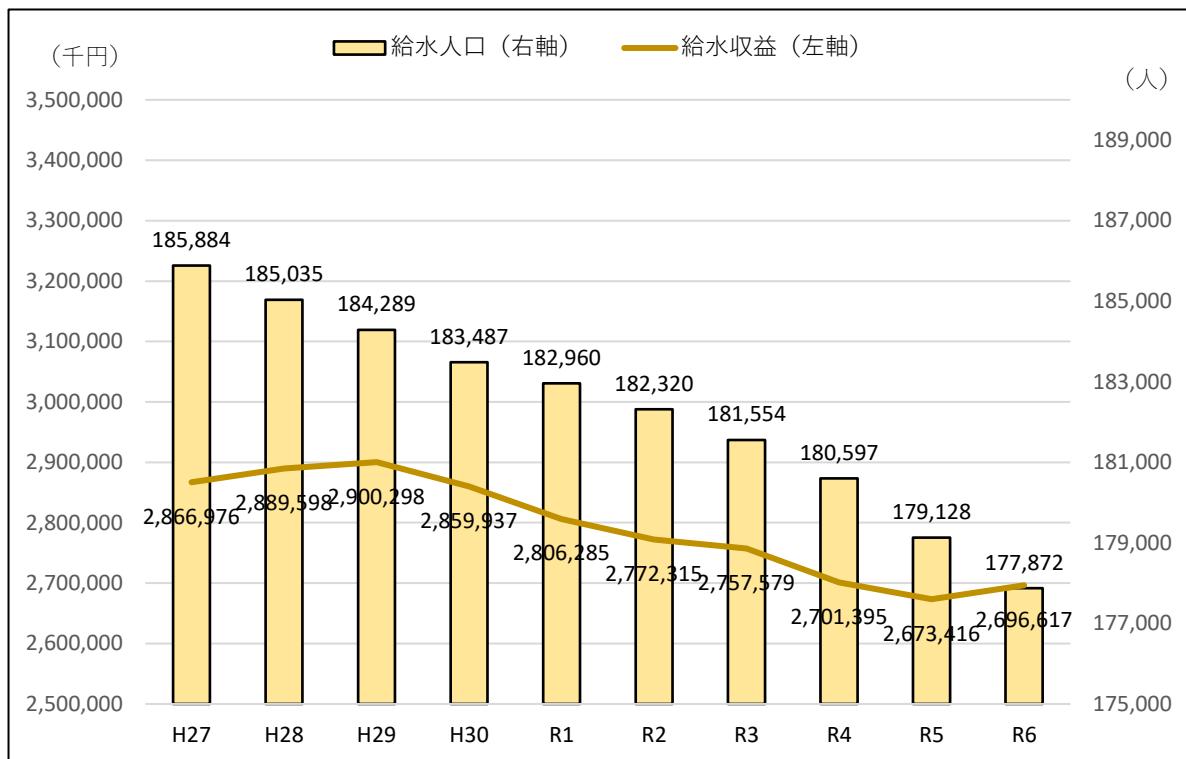
(2) 事業費に関する事項 【①金額（千円） ②構成比率（%）】

区分	令和4年度		令和5年度		令和6年度		対前年度比較	
	①	②	①	②	①	②	①	②
人件費	760,769	25.7	722,291	24.9	651,945	21.6	△ 70,346	△ 3.3
維持修繕費	259,673	8.8	257,867	8.9	254,189	8.4	△ 3,678	△ 0.5
動力費	174,227	5.9	166,119	5.7	172,781	5.7	6,662	0.0
損益勘定留保資金	1,279,120	43.2	1,268,342	43.6	1,330,240	44.0	61,898	0.4
支払利息	135,988	4.6	133,525	4.6	131,382	4.4	△ 2,143	△ 0.2
物件費その他	254,586	8.6	267,862	9.2	383,571	12.7	115,709	3.5
付帯事業費	95,339	3.2	89,515	3.1	96,849	3.2	7,334	0.1
合計	2,959,703	100.0	2,905,522	100.0	3,020,957	100.0	115,435	0.0



7 給水収益

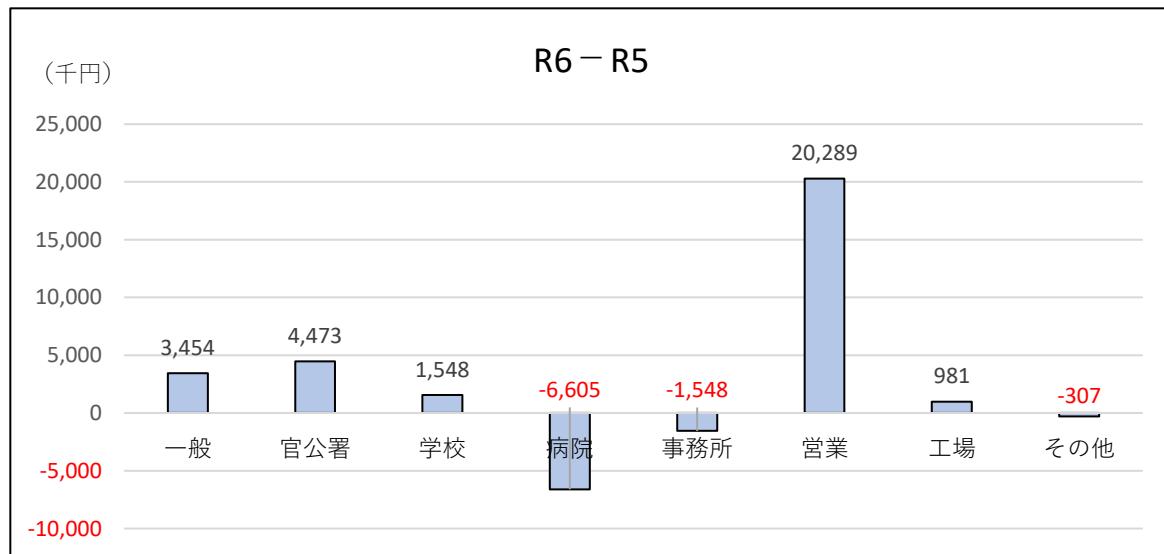
(1) 給水人口と給水収益の推移



人口減少に加え、節水型機器の普及により、水需要は年々減少し、それに伴い給水収益も減少してきました。しかし、令和6年度は給水収益が前年度より増加しています。

* 平成28年度と平成29年度は大規模な凍結災害があり、給水収益が増加しています。

(2) 給水用途別の前年度比較



この表は令和6年度と令和5年度の給水収益を給水用途別に比較したものです。

この中では【営業】が大幅に増加しました。これは、アフターコロナで経済が活性化したこと、インバウンド需要にてホテルや旅館などの水需要が増加したことが要因と考えられます。

また、【一般】については、11月まで暑い日が続いたことと、2月に二度の寒波をはじめ気温の上がらない日が続いたことにより、給水収益が増加しています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

* R1をコロナ前、R2～R4をコロナ禍、R5以降をコロナ後として給水用途別に考察

【一般】不要不急の外出を規制した影響もあり、コロナ禍で増加しました。

【学校】コロナ禍では、休校により減少しました。R5以降は水泳授業を校外民間プールでの実施へ移行したことによる使用水量の減少も影響しています。

【病院】コロナ禍で受診控えやホテル、自宅での待機が影響したと思われ、減少しました。それ以降、毎年減少しているのは複数の大型病院が老朽化した建物を省エネ型施設への建て替えたことが影響していると思われます。

【営業】コロナ禍で大きく減少し、コロナ後も回復はゆるやかでしたが、R6はインバウンド需要などにより、大幅に増加しました。

【工場】コロナ禍に入ったR2は減少しましたが、それ以降はコロナ前と同程度です。

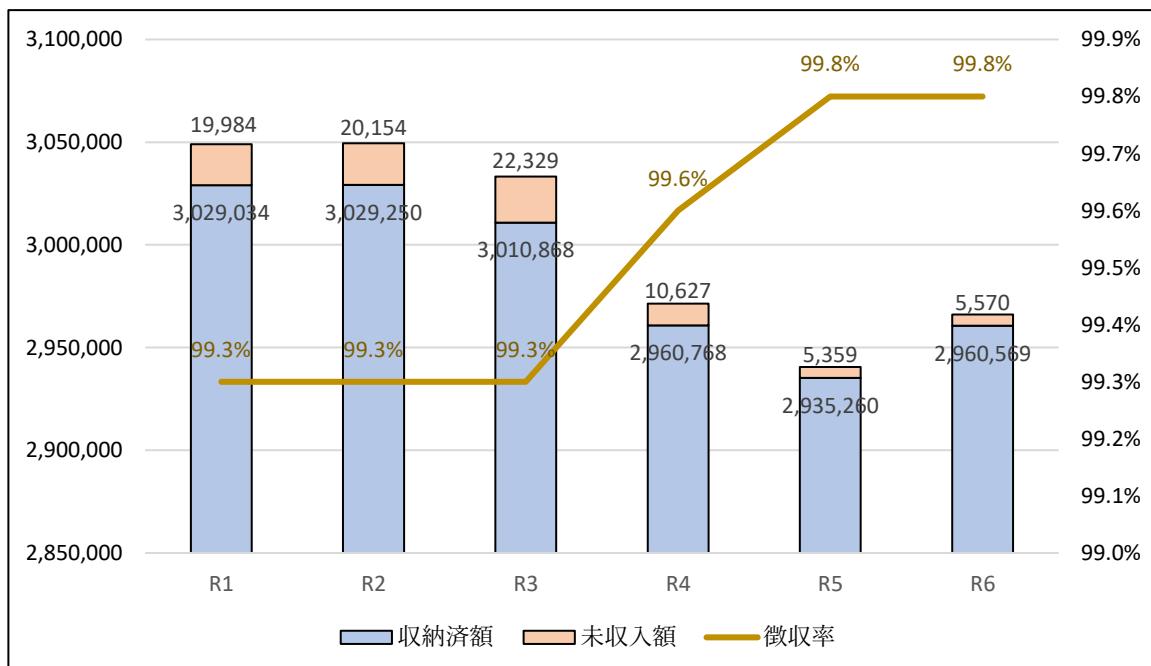
使用水量の増加に伴い料金単価が上がる逓増型の料金設定をしているため、コロナ禍では使用水量の少ない【一般】が増加、使用水量の多い【学校】【病院】【営業】

【工場】が減少となり、想定以上に給水収益が落ち込むこととなりました。

コロナ後には、経済が回復傾向となり、R6には給水用途別の割合がコロナ前に戻り、給水収益が前年度（R5）よりも増加しました。しかし、前々年度（R4）の給水収益よりは減少していることから、今後も人口減少や節水機器の普及による減少は続いているものと見込んでいます。

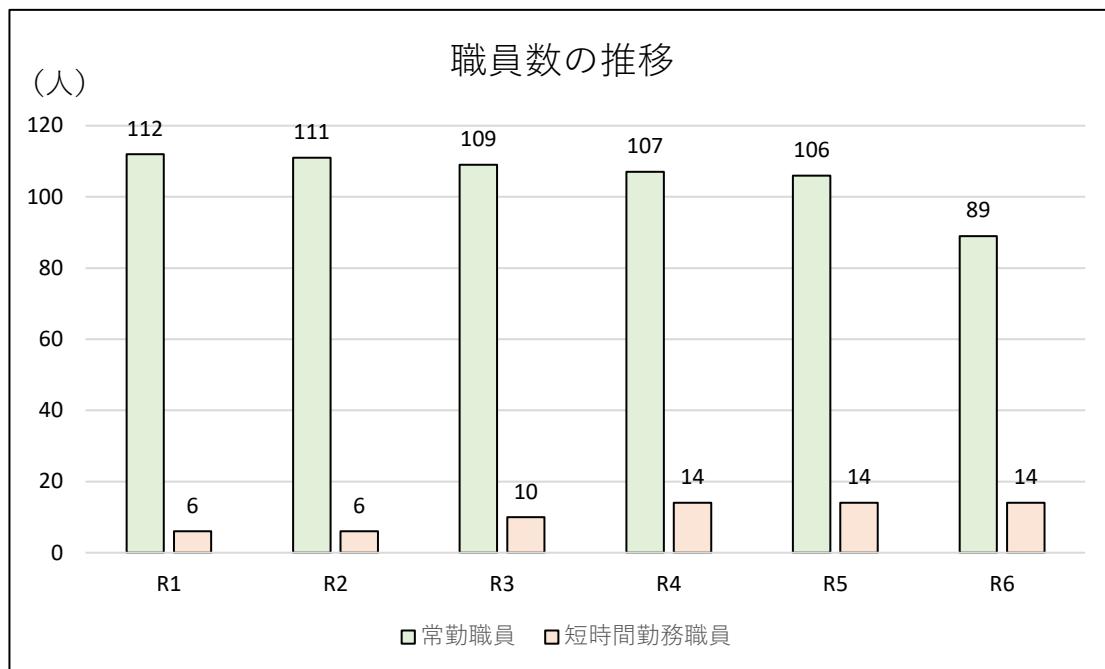
8 徴収率

給水収益の未収入額と徴収率の推移（翌年度5月時点の集計）（金額は税込み）

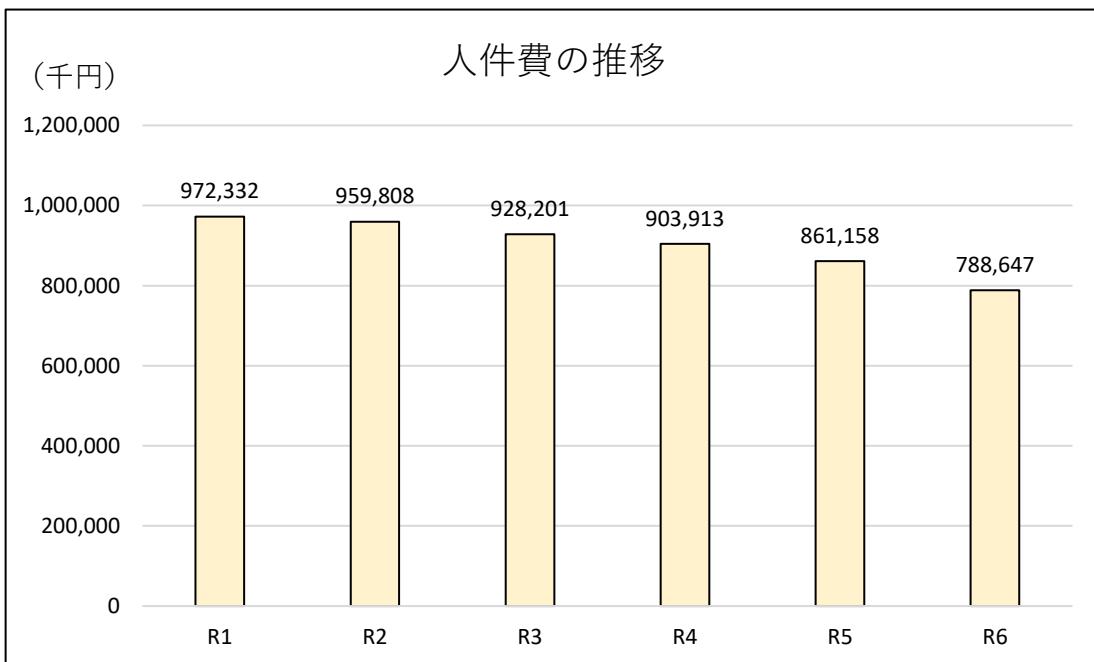


徴収率の向上に努めており、給水停止までの対象期間をR4は3期から2期に、R5は2期から1期に短縮しました。対象期間を短縮するにあたり、お客様への周知を徹底し、大きなトラブルもなく実施できました。R6からおさまセンターへ業務委託を開始ましたが、徴収率は同水準を維持しております。

9 人件費



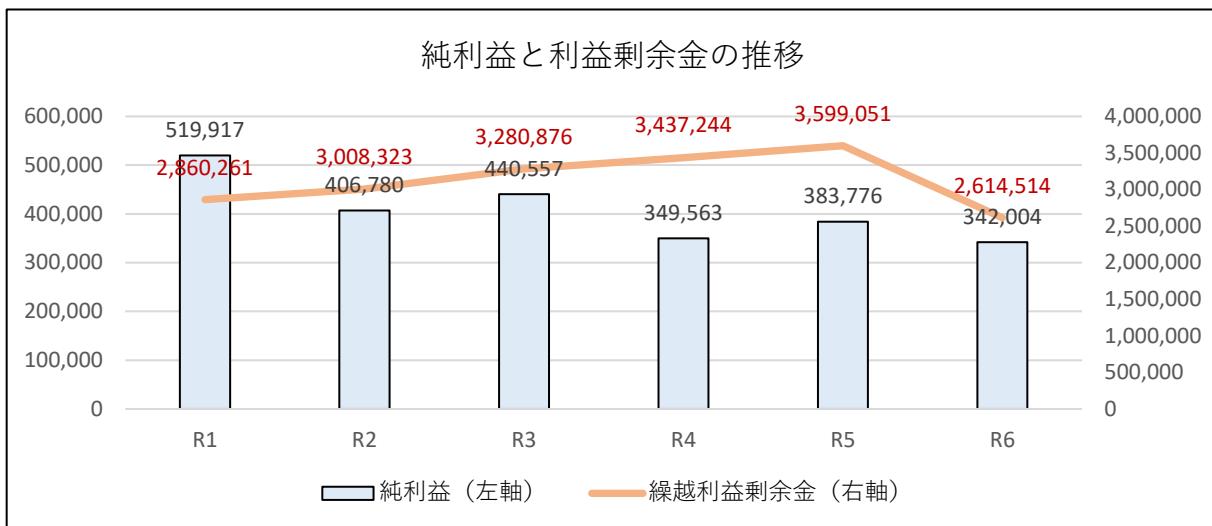
米子市水道事業においては、常勤職員を減少させ、暫定再任用職員や会計年度任用職員を活用することで人件費を減少させてまいりましたが、令和6年度は、退職者1名、再任用退職者4名、会計年度任用職員退職者5名に加え、お客様センター開設による市長部局へ7名の出向があり、更に減少することとなりました。



短時間勤務職員数の増加に伴い、人件費が減少しています。令和6年度は、職員給料のベースアップはあったものの前述のとおり職員数が減少したため、人件費は減少しました。

10 純利益と利益剰余金

(金額：千円)

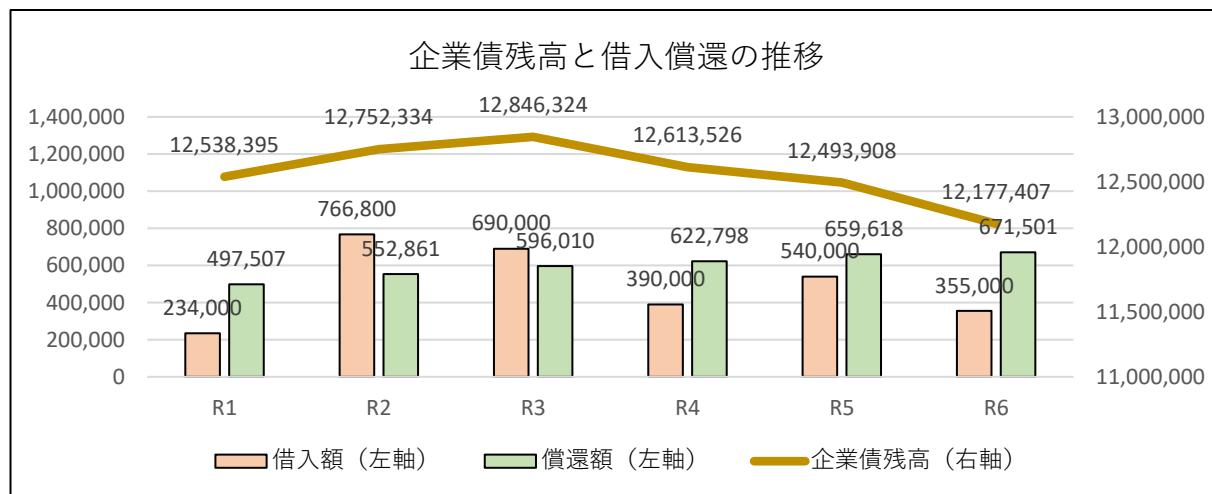


給水収益が減少するなか、人件費やダウンサイ징による費用の抑制で純利益を確保しています。R4以降は電気料金の高騰による動力費の増加など、物価高騰も純利益減少の要因となっています。

利益剰余金については、今後の純利益減少を見据えて、低金利を背景に借り入れを行っていたことにより増加しました。今後は金利上昇を見込み、借り入れを減少させていくため、利益剰余金は減少していきます。R6の大幅な減少は、前年度の繰越工事と石州府水源地開発事業、水質検査棟建設事業などの複数年事業の竣工によるものです。

11 企業債残高

(金額：千円)



【企業債残高対給水収益比率】

(単位：%)

R1	R2	R3	R4	R5	R6
446.8	460.0	465.9	466.9	467.3	451.6

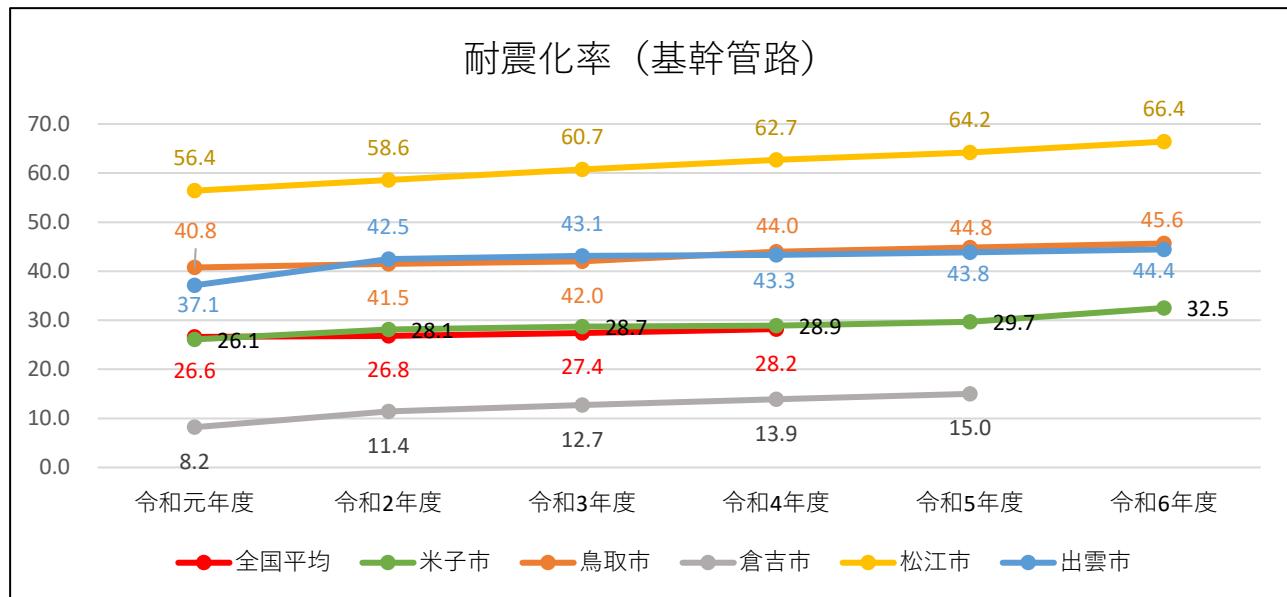
企業債残高については、企業債残高対給水収益比率が400%を下回るように借入額を抑制しています。R2~3年は借入対象の事業が多かったこともあり、借入額が償還額を上回りました。今後も計画的に企業債残高を減少させていきます。

なお、給水収益の減少が比率の改善につながらない要因にもなっています。

12 耐震化率

(1) 基幹管路の耐震化率

(単位：%)

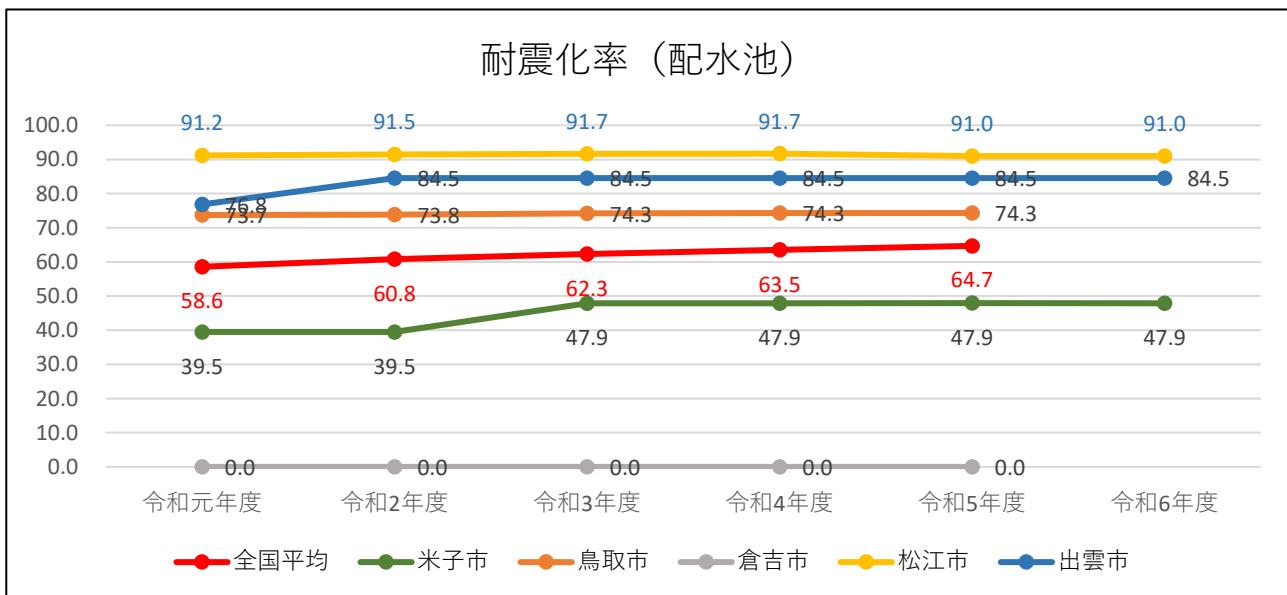


基幹管路の耐震化率は、米子市の耐震管採用年度が遅かったことが原因で、令和4年度時点の全国平均を若干上回っていますが、周辺事業体よりも低くなっています。今後も計画的かつ継続的な投資により、耐震化率を向上させてまいります。

* 令和5年度の全国平均、令和6年度の全国平均、倉吉市、松江市は公表前

(2) 配水池の耐震化率

(単位：%)



配水池の耐震化率は、容量の大きい配水池施設で耐震化が進んでいないため、松江市・出雲市よりも低く、令和5年度時点の全国平均及び鳥取市よりも低くなっています。今後は、まず耐震診断を実施し、その結果を踏まえて、優先度やリスクに応じた計画的・段階的な耐震化を進めてまいります。

* 令和6年度の全国平均、鳥取市、倉吉市は公表前

* 令和5年度の松江市は統廃合に伴う耐震化率の減少

13 主な建設改良工事

(管路に関する事業)

【基幹管路更新事業】

事業内容 米子市と境港市を結ぶ基幹配管を耐震化し、安定給水を図る継続事業。
工事場所 米子市富益町、境港市小篠津町
施工状況 鋳鉄管（ $\phi 500\text{mm}$ ） 布設延長1,025m
工事費 2億6,609万円
備考 対象工事費において1／3の補助金収入 企業債1,500万円借入

【老朽管更新事業】

事業内容 老朽化した配水管を中心に、災害に強い管網に整備した。
工事場所 米子市大篠津町、安倍、旗ヶ崎一丁目・二丁目、上後藤七丁目
三本松三丁目、米原三丁目、祇園町二丁目
境港市東本町、誠道町
施工状況 ポリエチレン管（ $\phi 50 \sim \phi 100\text{mm}$ ） 布設延長1,593m
工事費 1億579万円
備考 企業債借入 9,000万円

【配水管改良事業】

事業内容 他公共事業に伴う管網整備や、災害に対し脆弱な管の耐震化を進めた。
(単独改良) 米子市灘町、車尾、河岡、上福原、淀江町、大篠津町
工事場所 (支障移転工事に伴う改良) 境港市外江町、渡町、芝町
米子市河崎、彦名町、両三柳、夜見町、蚊屋、熊党、大谷町、東福原
施工状況 鋳鉄管、ポリエチレン管（ $\phi 50 \sim \phi 200\text{mm}$ ） 布設延長8,975m
工事費 7億113万円（負担金収入 3億1,224万円）

【石州府水源地開発事業】

事業内容 新規水源で取水された水を活用するため、近隣水源との連結管を設置した。
工事場所 米子市石州府、福万、一部、水浜、河岡
施工状況 鋳鉄管、ポリエチレン管、ステンレス管（ $\phi 150 \sim \phi 200\text{mm}$ ） 布設延長1,920m
工事費 2億5,089万円

(水源施設に関する事業)

【戸上水源地電気設備更新事業】

事業内容 老朽化した電気機械設備を更新することで、安定給水を図る継続事業。
工事場所 米子市福市（戸上水源地内）
施工状況 電気設備工事、送水ポンプ取替工事、取水ポンプ取替工事
工事費 3億1,712万円
備考 令和3～7年度に係る継続事業 企業債 2億5,000万円借入

【石州府水源地開発事業】

事業内容 新規水源を活用するため、電気・機械設備工事を実施した。
工事場所 米子市石州府、水浜、日下、福市、車尾南二丁目
施工状況 貯水槽設置工事、電気設備工事、場内配管工事、機械設備工事
工事費 1億7,577万円

(その他事業)

【水質検査棟建設事業】

事業内容 検査室の老朽化に伴い、現在の建設基準を満たす検査棟を建設した。
工事場所 米子市車尾南（車尾水源地内）
施工状況 建築主体工事
工事費 2億3,569万円

参考資料

損益計算書 (金額は税抜き : 千円)

支出の部		収入の部	
営業費用	2,867,487	営業収益	2,984,264
原水及び浄水費	427,248	給水収益	2,696,617
配水費	280,613	受託工事収益	104,572
給水費	164,881	加入者納付金	45,108
受託工事費	96,849	その他営業収益	137,967
業務費	222,252		
総係費	321,087		
減価償却費	1,255,667		
資産減耗費	98,890		
営業外費用	145,132	営業外収益	364,644
支払利息及び企業債取扱諸費	131,383	受取利息及び配当金	2,553
雑支出	13,749	他会計補助金	435
		長期前受金戻入	358,505
		雑収益	3,151
特別損失	8,338	特別利益	14,053
固定資産売却損	7,741	固定資産売却益	9,660
過年度損益修正損	597	過年度損益修正益	108
当年度純利益	342,004	その他特別利益	4,285
合 計	3,362,961	合 計	3,362,961

貸借対照表 (金額は税抜き : 千円)

資産の部		負債の部	
固定資産	35,882,591	固定負債	12,672,455
有形固定資産	35,874,691	企業債	11,523,220
無形固定資産	7,900	引当金	1,149,235
流動資産	4,560,163	流動負債	1,537,150
現金預金	4,097,012	企業債	654,187
未収金	370,030	未払金	745,836
貯蔵品	7,668	前受金	40,160
前払費用	1,228	引当金	62,449
前払金	84,225	預り金	34,518
		繰延収益	8,680,716
		長期前受金	8,680,716
		負 債 合 計	22,890,321
資本の部			
		資本金	13,241,881
		自己資本金	13,241,881
		剰余金	4,310,552
		資本剰余金	28,597
		利益剰余金	4,281,955
		資 本 合 計	17,552,433
資 产 合 计	40,442,754	負 債 ・ 資 本 合 计	40,442,754

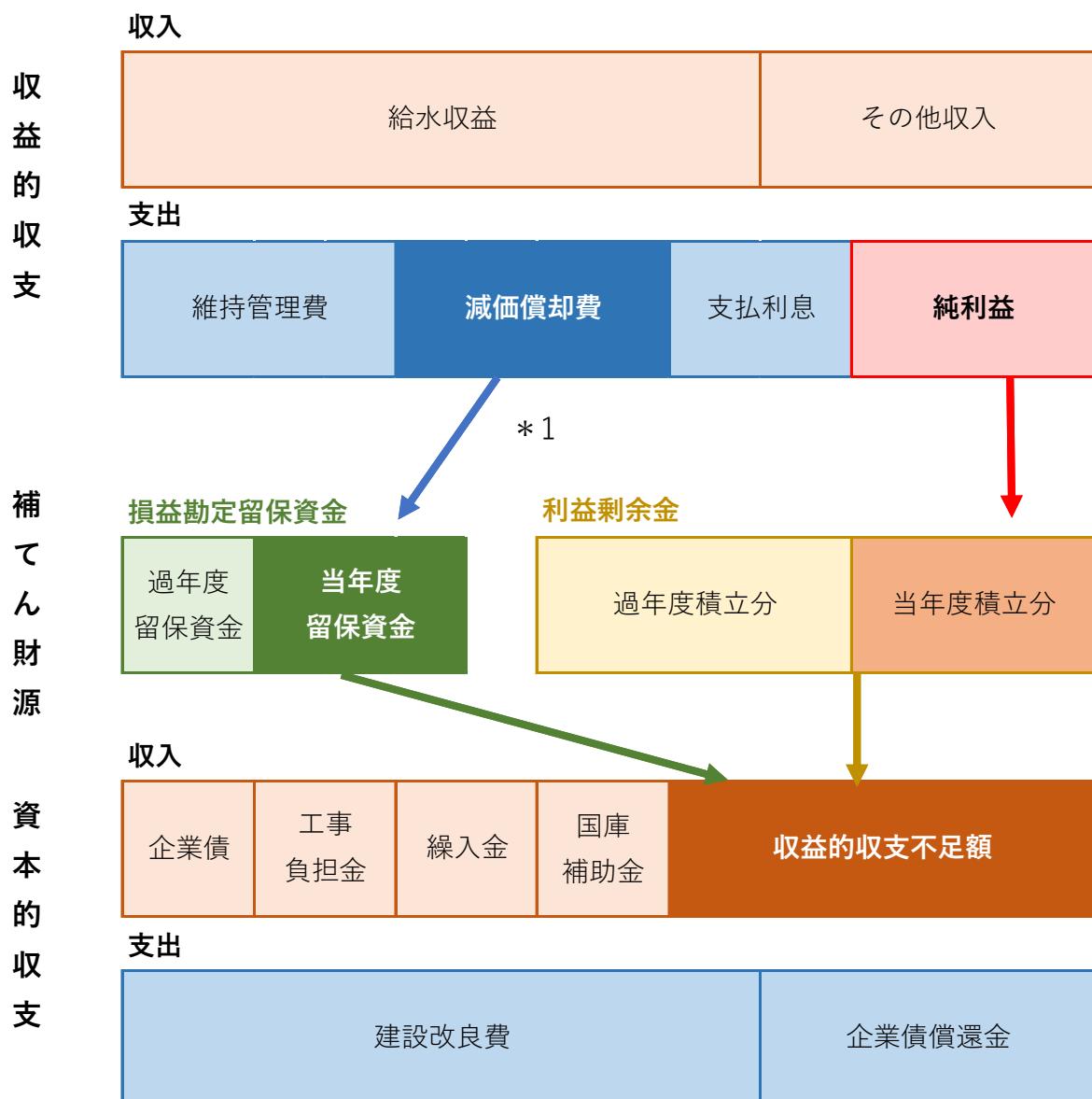
参 考 資 料

	分析の考え方	R6	R5			
			米子	鳥取	松江	全国平均
【経常収支比率】 給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標	単年度の収支が黒字であること を示す。100%以上となってい ることが必要。	111.2	113.4	103.3	106.9	108.1
【流動比率】 短期的な債務に対する支払能力を表す指標	1年以内に支払うべき債務に対 して支払うことができる現金等 がある状況を示す。100%以上 であることが必要。	296.7	351.7	145.2	138.8	243.4
【企業債残高対給水収益比率】 給水収益に対する企業債残高の割合で あり、企業債残高の規模を示す指標	* 1	451.6	467.3	577.3	378.1	261.9
【料金回収率】 給水に係る費用が、どの程度給水収益 で賄えているかを表した指標	100%を下回っている場合、給 水に係る費用が給水収益以外の 収益で賄われていることを意味 する。	105.5	108.2	82.4	97.1	97.8
【給水原価】 有収水量 1 m ³ 当たりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す指標	* 1	130.5	126.6	204.7	221.4	177.6
【有収率】 施設の稼働が収益につながっているか を判断する指標	100%に近いほど施設の稼働状 況が収益に反映されていると言 える。	91.3	91.0	91.1	93.5	89.4
【有形固定資産減価償却率】 有形固定資産のうち、償却対象資産の 減価償却がどの程度進んでいるかを表 す指標	* 1	48.3	48.3	48.3	45.4	52.0
【管路経年化率】 法定耐用年数を超えた管路延長の割合 を表す指標	* 1	20.5	17.5	23.0	28.5	25.4
【管路更新率】 当該年度に更新した管路延長の割合を 示す指標	明確な数値基準はないと考えら れるが、数値が2.5%の場合、 全ての管路を更新するには40年 かかるペースであることが把握 できる。	0.9	0.8	0.6	0.7	0.6

* 1 明確な数値基準はない。経年比較や類似団体との比較等により自団体の状況を把握・分析し、適切な数値となっているか、対外的に説明することが求められる。

◆公営企業会計の仕組み

公営企業は「給水収益」「企業債」「工事負担金」「国庫補助金」「繰入金」等を財源とし、経営を行います。



* 1 減価償却費以外にも、資産減耗費など他の非現金支出の合計額から、非現金収入（長期前受金戻入）を除いた額が内部留保されます。